

日吉町自治会だより

ひよし

第22号

発行 日吉町自治会
編集 日吉町自治会
 広報委員会
印刷 情報印刷(株)
発行日 平成30年1月

日吉町自治会ホームページ

<http://www.hiyoshicyou.net/>

日吉町自治会 ⇒ 検索



日吉台小学校では情報班を担当、避難者の受付と人数を本部に報告。

好天に恵まれた十月一日(日)、日吉地区合同防災拠点訓練は日吉台小学校・下田小学校・駒林小学校・矢上小学校・日吉南小学校の五つの防災拠点に於いて同時に実施された。これは、大災害が発生するのはどの防災拠点でも同時に被災するとの発想で港北区役所が提案、綿密な位置合わせを重ねて実施された。この防災拠点は学区で決められており、日吉町自治会では、西地区の日吉台小学校と東地区の矢上小学校、二つの拠点で同時に行うこととなった。日吉台小学校では、避難者名

日吉地区合同防災拠点訓練実施

簿に記入し、校庭に集合、救助資機材の展示や、水消火器による初期消火訓練などを行った後、体育館に移動し防災ビデオによる研修と、三角巾の使い方や心臓マッサージの講習が行われた。矢上小学校では、名簿に記入後、体育館に移動し、日吉台小学校の室内訓練と同様のことを行った。五つの



矢上小学校での訓練の様子

拠点での共通した訓練は、防災無線やアマチュア無線による区役所との連絡や、各拠点間の情報伝達訓練が行われた。各拠点の同時避難訓練は、この無線試験の確認が本来の目的と言える。

サロン日吉「なかよし」 五周年記念「サロン祭り」

好天に恵まれた、七月二十八日(金)日吉町公会堂及び自治会館で、サロン日吉「なかよし」の五周年を記念した、サロン祭りが開催された。このサロン日吉は近隣三町会の共同開催で、一月と八月を除き毎月地域の交流を目的として行われている。五周年を迎えたこの日、婦人会・子ども会・自治会役員等が一堂に会し、会長の常磐会自治会の榊井会長の挨拶に始まり、元料理人が作った美味しいスパゲッティをいただき一年間の思い出話に花を咲かせた。子供たちは自治会館でゲームや折り紙を楽しんだ。



駅前花壇 冬の花に模様替え

小春日の十一月十五日、駅前花壇の植え替えが行われた。ボランティアの方々がこまめに手入れをされていた花壇も夏草が増えすぎたため、このほど冬草へと植え替えられた。ベンチを撤去したことでごみが散乱することも無くなり、色鮮やかな花を楽しめるようになった駅前花壇、時折たばこのポイ捨てがあるものの、綺麗に保たれている花壇。新たに色鮮やかなパンジーが植えられ、行きかう人々の目を楽しませてくれる。感謝。



慶応日吉記念館 建て替え工事

慶応義塾大学日吉キャンパスの講堂、日吉記念館が十一月七日をもって建て替えのため閉館となった。昭和三十三年（一九五八）以来五十九年間にわたり銀杏並木から日吉駅や日吉の町を見守り続けてきた記念館の閉鎖は寂しい限りだが、平成三十年（二〇二〇）三月には新たに完成の予定だ。新しい記念館がどのようなデザインに生まれ変わるのか、これもまた楽しみの一つとなった。



建て替えられる日吉記念館

消防署・消防団連携 長距離送水訓練実施

全国一斉秋の火災予防運動にて防火・防災の広報活動を行った港北消防署と港北消防団が十一月十九日（日）小机町、鶴見川河川敷に於いて長距離送水訓練を実施した。これから火災シーズンを迎えるにあたり、昨年発生した糸魚川市の大規模火災を想定して行われたもので、鶴見川から大容量水槽に水を溜め、百ミリホースを一キロメートル延長し遠距離に送水、放水する訓練で午後一時から四時まで水圧などを調整しながらの初めて行う訓練であった。普段使用する六十五ミリホースよりかなり太いためホース延長に戸惑ったものの、有意義な訓練であった。



→
水槽に
水を溜
める

←
1 km. 先
で放水

消防団員 緊急大募集

近年、消防団も定年制になり、団員が慢性的に不足しています。港北消防団も現在二十名が不足、三月末には、定年退団者を含めると約四十名が不足する見込みです。この日吉地区は人口七万人を超えるマンモス地域です、アピタ跡地に大きな共同住宅の建設が決まり着工しましたのでさらに人口が増加いたします。しかし、この地区を担当する第五分団でも十五人ほど不足です、十八歳から男女を問わず入団が可能です。地域社会の防火防災には是非お力をお貸し下さい、入団希望者は港北消防署迄連絡をお願いします。電話・045・546・0119 宜しくお願い致します。

港北消防団第五分団長 森 茂

横浜日吉歴史散歩（十八）

— 台小尊徳像の前で —

第5地区 伊藤鈴太郎

背中をこころもち前屈みにして薪を背負い、歩きながら本を読む若き日の二宮尊徳像。定番のポーズだが昨今滅多に見かけない。最近日吉台小学校校庭にあると聞き、早速出かける。ちょうど下校時間で門が開いていてラッキー。校庭へ失礼して。

尊徳像は心持ち眼をあげて前方を見つめている。前方から人が来るのかあるいは読んでいる本の内容を反芻しているのか。おだやかな表情で、このポーズが素晴らしい。（左の写真）



尊徳は幼名を金次郎と言い、尊徳と称するようになったのは五十六歳の時。功なり名を遂げた彼に藩主が授けた。

第二次大戦中多くの尊徳像が供出接収され、残った金属以外の像も多くが戦後間もなく撤去されたと認識していたが、台小の尊徳像は戦時中接収を免れるため当時の校長があえて像を隠したと言われているがどうもそうではないらしい。1962年（昭和

37）校舎を鉄筋に建て替えた時、一時的に倉庫に保管され何年か前に整理の際に発見されたという。像の台座には「皇紀2600年」寄贈と記されていることから接収を免れたらしい。（皇紀2600年＝昭和15年・1940年）。像に並んで創立百年記念碑（昭和四八年六月二四日建之）が建っている。

ところで市内の小学校に尊徳像は何校位有るのか。市の教育委員会に問い合わせたところ、小学校340校中約40校に尊徳像があり、昭和四〇年以降に設立された小学校には像が設立された例はないという。

台小の尊徳像を見上げながら、尊徳とはどういう人だったのか・・・。

二宮尊徳は上述したように幼名を金次郎と言い、今から230年前の1787年小田原藩栢山村で生まれる。すぐ脇を暴れ川酒匂川が流れる。

父親は分家の次男坊で大の読書好きで村では「善人」と呼ばれた。百姓に向かない人だったという。金次郎には読書・学問の大切さを教えた。農業に100%注力しない父を持ち、頻繁に氾濫する酒匂川の被害もあって家運次第に傾く。十三歳の時父を、その二年後に母を亡くす。田畑を手放し本家の伯父の家に。背中に薪を背負って歩きながら本を読んだという話はちようどこの頃で、尊徳一五歳頃で実話であるという。

歩きながら大きな声で難しい漢籍（中国の本）を読み、繰り返し暗誦していたという。背負った薪は実家で使用するのでなく町に出て売ってお金

にするための薪だった。薪を目一杯担いで町に。一〇文（二五〇円）くらいにはなったのか。そして家から一里ちよつと、この往復の貴重な時間を読書に充てていた。なぜ歩き読みをするのか。それは、ある夜本を読んでいた伯父から「油代がもつたいない、百姓に学問は無用」と叱責されたことも理由のひとつだが、時間を無駄にしないという強固な信念を持っていた。薪を売ったお金で一汁一菜の卓に一品加えるということはしない。使わずに貯える。先々農器具などの購入にあてる。不時の出費に備える。また困った人に貸し付ける。「入るを量って、出づるを制す。小を積んで大と為す」自分が稼ぐ多寡を知らなさい。無駄遣いをしないで貯蓄に励みなさい。後に尊徳が手掛けた藩・武家・農村の再建復興事業の基本的手法になった。この質素・儉約・貯蓄は後にお家再興を引き受ける条件として殿様にも食事は一汁一菜を要望したという。

金次郎一六歳の時家は没落。第二人は母の実家に、自分は父の実家に引き取られる。没落の原因として、父が次男坊で分家だったことが大きいという。分家を創設すれば当然その家に年寄りはいない。年寄りのいないことがその家にとって実は大変な負担なのだ。このことが金次郎の家の斜陽につながった。

年寄りの仕事・・・麦を庭で干す、鳥を追い払う、干した豆の皮をむく、納屋の片づけ、わらを編んだりとか家の中の仕事いろいろ。

これを当主夫婦だけでやるとなる

と、田畑の作業がおろそかになる。また村の共同作業も控える。村にはいろいろな共同作業があり、堰・用水路の修復作業、農道の整備、入会山（村が共同管理している里山）の下草刈り、間伐。これに当主は出張らなければならぬ。疲れたからと共同作業に不参加では村が困るのだ。

それにしても年寄りが頼りにされるなんて羨ましい話ではある。

二〇歳で伯父の家を出る。並外れた体力・知力・精神力で家の再建に取り組む。失った田畑を買い戻しこれを人に貸し付け小作料を得る。「水害や借金から逃れる法、それは自らは田を耕さないことだ」と言い放つ。自身はのちに大地主に。600余村の復興に係わり、また多くの藩・武家の再建に尽力する。尊徳は江戸時代後期の不世出の農政・家政再建コンサルタントであった。尊徳についてまだまだ書き足りないところがあり、機会を頂いて続きを書いてみたい。

それにしても台小の校庭に立つ尊徳像、おだやかな表情で本当にすてき。

「若くして学べば壮にして成すことあり。勉強しようね、将来必ず役に立つからね。テレビ・スマホはほどほどにね」無言で生徒たちに話しかけているようだ。

(了)

歩きスマホは危険です
前を見て歩きましょう。

日吉台中学校 開校七十周年記念祭

開校七十周年を迎えた今年度、日吉台中学校では十月二十六日(木)文化祭の一環として生徒たちによる開校七十周年記念セレモニーが行われた。学校長、PTA会長、日吉地区連合町内会長らの挨拶の後、日吉台中学校七十年の歴史を題材にした朗読劇・ブラスバンド演奏や合唱などが披露された。



挨拶をする高橋校長先生

日吉神社御祭礼

日吉神社の例大祭は、毎年八月二十八日とさだめられている。昭和五十一年の伊勢神宮の御分霊「天照坐皇大御神」を勧請



山車を引く子供たち

奉斎し遷座祭を執行した日だ。この日は神社本庁より特使を招き古式ゆかしく例大祭が挙行される。直前の土曜日に宵宮祭、奉納輪踊り、日曜日に神賑行事として、神輿、山車の渡御、夜には素人演芸大会が催される。両日とも婦人会や子ども会の方々により夜店が出店され大賑わいとなる。



素人演芸大会の一幕

日吉神社 戦没者慰霊祭

日吉神社境内にある戦没者慰霊碑は日吉神社から出兵され、戦地に赴き、戦陣に散った三十六柱の英霊が祀られている。昭和五十四年に戦友であった板垣大助氏を筆頭に十五名の慰霊碑保存委員により建立された。慰霊碑の文字は、当時の靖国神社宮司であった松平永芳氏の揮毫による。

あいにくの雨となった十月二十一日(土)慰霊碑の前で第三十八回戦没者慰霊祭が厳かに執り行われた。開式の辞の後、雨のため国旗掲揚は省略されたが全員で国歌を斉唱、神事に則り式典は進行。宮司の祭詞奏上に続き、黙祷の儀では、歌人、大伴家持の長歌に曲を付けた「海ゆかば」が演奏される中、黙祷を捧げた。



宮司による祭詞奏上

日吉神社 招福餅つき祭

小春日の十二月十日(日)日吉神社境内に於いて、招福餅つき祭が行われた。百二十キロの餅を搗き六十キロは伸し餅に、残り六十キロは、あんころ餅、きな粉餅、おろし餅にして、境内に集まった善人善女に振舞った。



餅をつく宮司

編集後記

今年の防災拠点訓練は十月一日に日吉地区の五つの小学校で同時に行われた。災害は同時に発生すると考えからの同時開催であった。防災無線やアマチュア無線での区役所や各拠点での連絡や電波の状況が把握され、連絡網の体制が確認された。しかし課題もあった、地震体験の起震車は一台しかなく、煙体験も三拠点に限られた。本来、防災拠点は家を失った人たちの臨時の生活の場となる。今後はプライバシーの確保等も課題の一つだろう。